



合気道は自分の人生の目的 毎日の修行を通して 自分を見つめます

はたやま

畑山 憲吾さん

(合気道師範)

HITO



「初めて合気道を見たときに魅せられてしまいました。もしかしたら自分は将来この道に進むのではないかと直感したんです。まさに運命的でした。」と合気道との出会いを話してくれるのは、狭山台にお住まいの畑山憲吾七段。現在、師範として後進の指導に積極的に取り組んでいらつしやいます。

小学校のときに大きな病氣をして以来、「体を鍛えたい」「気持ちの弱さ、物おじする性格を鍛えたい」と考えていた畑山さんが、合気道に出会ったのは大学3年生の夏休み。東京で合気道を習っていたお兄さんに連れられて道場に行き、初めて見ました。当時はまだ合気道なんてほとんど知られていませんでした。でも合気道の「自分に勝つこと。つまり相手に勝って自己満足するのではなく、

お話を伺っているときは、とても優しい目で話してくださいますが、ひとたび稽古が始まると、そのまなざしは武道家としての鋭い眼光にかかります。

修行中の自分を磨くために投げ、また投げられつつ修行していく。」という教えに、こんな素晴らしいものがあつたんだと感動しました。」と当時を振り返ります。合気道に魅せられてしまった畑山さんは、寝ても覚めても合気道の日々が続きます。そして、もつと稽古に打ち込みたいとの想いから、つとつと動めていた電機関係の会社を退職して、合気道家としての道を歩み始めたのです。私が弟子入りした先生は、稽古より日常生活に厳しいかたで、私は叱られてばかりでした。でも、そのおかげで今の私があるのです。」と話します。そしてこの厳しい修行時代、自分が正しいと思つたらデコでも動かないというくらい、の気持ちを持つこと、妥協しないことの大切さを学んだとおつしやいます。

合気道の魅力は、この瞬間に「合気道には、演武と言つて技や型を披露することはありますが、剣道や柔道のような順位を決めるための試合がないんです。つまり勝負を抜きにして自分を見つめることができるという事です。」そして、合気道は護身術受け身の武道と思われがちですが、そうではありません。相手を漫然と待つのではなく、たとえは様、持たれる「のではなく、持たせる」「突かれる」のではなく、突かせる」というように、常に自分をポジティブに



「最近では犯罪が多くなっているため、護身のために合気道を始める人もいます。武道と堅く考えないで、何かに役立つきっかけになればいいと思います。」と公民館で開催した講座で受講者に指導します。

夏休みに消防署を見学して 火事や地震のときの 体験をしてみませんか



地震体験はちょっと怖かったけど、消火訓練はゲームみたいで楽しかったです。いざというときの練習になるので、皆さんも体験してみてください。

REPORTER'S EYE

消防署



【リポーター】
大野あすかさん
(鶴ノ木在住・小学5年生)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民がレポートします。

消防車や救急車のサイレンを聞くたびに、私はドキドキします。どこかで苦しんでいる人がいると思うからです。今回は、そういう人を助けるために働いている狭山市の消防署をレポートします。

最初に、夏になると多くなる花火の事故をなくすために、必ず大人と一緒に遊ぶこと、花火に書いてある説明をよく読んで正しく使うことなど、注意することを教えてもらいました。今まで花火のときは大人と一緒にだったし、注意も守っていたけど、小さい弟にも今回聞いたことをよく教えてあげたいと思います。それから、夏休みになると増えるのが119番のいたずら電話だそうです。119番にいたずら電話をかけると本当に困っている人の電話がつかなくなるので、絶対にやめてほしいと話していました。

隊員の皆さんはいつでも出勤できるように交代で24時間体制で働いていて、寝るときもすぐに出勤できるように、作業服を着たままだそうです。

隊員の皆さんは、毎日訓練をして体をきかえています。建物の3階からロープだけで降り降りして人を助ける訓練を見せてもらい、すごい力持ち！こわくないのかな、とびっくりしました。それに全員がとてもしずばやく動いていたので、人の命がかかっているから、1秒でも早く助けなければいけない、という気持ちが伝わってきました。



ひと足お先に見せてもらった子ども向けの消防の「キッズページ」のトップページ。ためになるし、クイズもあってとても楽しいホームページです。

また、消防車や救急車にもいろいろな種類や役割があることが分かりました。火事の種類や、事故とか災害の現場に一番役に立つ車で出勤します。私の家のように8階建ての建物が火事になったとしたら、少なくとも11台ものさまざまな消防の車が到着するそうです。

今回、いろいろなお話を聞いたり、地震体験や消火訓練をさせてもらって、消防の仕事の大変さと、火事や事故を起こさないことの大切さがよく分かりました。今度は私の家族にもいざというときのために地震体験や消火訓練をしてもらいたいと思います。皆さんもぜひ、夏休みに消防署を見学してみてください。

それから、夏休みにぜひ見えてもらいたいのが、7月1日にオープンした消防ホームページの「キッズページ」です。消防署の人の手作りのホームページで、消防の仕事が私たち小学生にも分かりやすく載っています。これを見ると、きつとお父さんやお母さんも知らなかったことが分かると思います。

隊員の皆さんが出勤するときは、どこかで事故や火事があったということなので、消防の仕事が忙しくならないといえます。これから、私たちみんなのために、体に気をつけてがんばってもらいたいです。

●問い合わせ消防署へ ☎953 6177